夕刊
磐城新聞
二月七日發行
定價 一ヶ月金六十五錢
發行所 磐城新聞合資會社
(日曜祭日翌日休刊)
東京振替一〇八五五六番

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩は北西の風曇後晴
明日は北西の風晴後曇

新年の回想
島田忠夫

(中)

鎌倉で少年から青年のころ數回迎へた新年は、今もありありと浮ぶ。由井ヶ濱ぬの一の鳥居に近く、松林の中にあつた宿は庭に廣い池があつて、多の寒い夜半には鴨がおりた、二三室この池のある庭に向いて並び、その一室に胸を病む若い人妻も來てゐた、ある年の正月同宿の私等二三人が婆さんと協力して輪飾やメ繩を張り元日の屠蘇を祝つた。二十をちよつと出た許りの美しい人妻は頬をほんのり染めて、弱ひらゝと儚い鈴のやうな聲で端唄などをうたつた。その人は病院に移つてから亡くなつた筈である。この宿は學生時代の石傳茂氏も一度泊つた筈だし逗子八郎氏も同じ學生服でよく來たものだつた

鎌倉から任になる豊田村長尾臺の山居に新年を迎へたことがある、閑寂なこの山居のさまは、私の童謡集に吉江喬松先生が下さつた序文によく描寫せられてゐる昔郷士だつたといふ大地主の書院に私は住んでゐたのだが、その家には嬰兒が三人も居つた、徒然のまま夜はこの嬰兒や、村の若者達のため夜學を開いてゐたので、教子が提げてくる正月の餅で私一人にはとても食べ切れなかつた。正月十四日の夕方、村童が松飾の焚火をはやすのどんど祭の鄙びた行事は今も忘れられぬ

ある年、たぶん月遅れの正月十四日と思ふが、箱根の山麓、上府中村の道祖神祭を見に出かけた。童謡を作るIといふ村の篤農青年に知つてゐて、彼の家に泊つて左義長の小舎をのぞきで出かけた。小舎の中は村童で一ぱいになり、何かゴトゴトとうまさうな煮物が大鍋の中から匂ふ。味噌をまぶした田樂の馳走になつて地酒を飲んだやうに思ふが、雨も混つてゐたに違ひない。笛を吹く者、太鼓をうつ者、薬園ひの中はさながら樂園である。Iとふたり頬を失くして小舎を出たら寒天には星が白布のやうに冴れ、箱根の山へ曳いてゐた。翌朝刈田の薄氷のうへにところどころとした野鴨の姿を見かけたりした

平局俳黎會　一月句會 (五)
『初鴉、枯野』

○夕さるゝ枯野に君と別れけり　果秋
○風やみし枯野を低く偵察機　麗月
○月代に風沈みたる枯野かな　水明
○風落ちて枯野に夕陽燃えんとす　同人
○初鴉殘んの月の杉の秀に　同人

日暮れの馬車
結城よしを

高粱　高粱　あアをいな
サヤサヤ風の吹く中を
馬車　馬車　走つてる
トテトテラッパが靜かだな
高粱　高粱　たアかいな
涼しい道よ薬陸道
黄色い黄色い服を着た
子供が笑つて乘つてゐる
高粱　高粱　さアむいな
南京街はまだ遠い
ロバさん　ロバさん　つかれたろ
お日樣再見もうします
(註　再見はさよならのこと)

日暮の山
濱名葉子

日暮山　さびしい山
ひぐらしが　鳴いてゐる
日暮道　さびしい道
ちぎられて　百合の花

寄立花勝君在京都
珠雲　小野務平

多歳咲離參與商
江雲渭樹所恩長
羨君斷夕淸ぬ骨
碧水靑山古洛陽

2月8日
△始めて新聞紙の發行を許す(明治二)△日露開戰(同三七)△外蒙兵大擧襲來、我軍之激戰(昭和一一)△林內閣新政綱發表△支那中央軍西安に入城(同一二)

講談　髑髏組(どくろぐみ)
(109)　林杢兵衛 作　金子士郎 畫
運命(四)

權十郎は、双の眸に憐憫の情を漲らして、凝つと見詰めてゐる。

暫らくは、こうして續く相互の息詰まるやうな沈默。やがて、決心がついたらしく、暗然たる顔をあげた刑部。

『仕方がない――』

『では、あの、御承知下さるか!』

『飛道具も、槍の穗も、決して恐れる拙者ではないが一度汚された此の心はもう洗ひ落せぬ。上總殿、實は拙者、かつては貴殿の一味で、石藥師延命院裏の墓地において拙者を狼藉なせし黒猫お峰の――』

『何と云はるゝ』

今度は、權十郎が驚きの眼を見張つた。

『驚かれたか、お峰は拙者の妾、夜盗の類に違ひない貴殿との縁はいつ切れたか知らないが、ともあれ、東海道の札附、流石はお仕込みだけあつて凄いものでござつた』

云はなければならない刑部の心中は、百寸の長腹ヶ寸斷される思ひだ、

『おゝ、では此の、巣を荒されて、女を斬つて逃げ去行衛知れずの男と云ふのは――』

『如何にも拙者のこと、仲間に入れて頂かうか、どうせ世間を明るく渡れない男これも運命だ。確ゝ怨むをはない。夜盗が身に合つた稼業かも知れない』

刑部は淋しく笑つた。俄に變つたその態度、權十郎始め一同は、氣に呑まれて臆へる言葉もない有様。

殊に、勘太と小六は、石藥師以來、刑部に恐した數々が思ひ出されて、思はずその罪業の深さに身が凍つた。

もう一入。首筋が寒く、背中へ冷汗をにじましたのは南岳堂だ。

こうして、新らしく刑部を加へて結成された髑髏組權十郎の意氣は沖天の概があつた。

それから後、怪盜髑髏組の魔手は、鼎の湧くやうに立ち騒ぐ御用聞を尻目にかけて、盆、傍ら無人に八方へ延び、江戸八百八町を、恐怖と戰慄の渦へ巻き込んで火の消へたやうな沈默の底に陷らしめた。

髑髏組!――髑髏組!――髑髏組!――

あらゆる事件が踵を次いで起き、その悉くが、髑髏組の仕業であつた。

江戸の岡ッ引、御用聞は矢の倉の茂十、黄房の源七が二組に指揮して、俄然、總動員の水も洩らさぬ嚴重な警戒網を張りめぐらした

これ等、血眼の捕手を絶所に、中洲の料亭如月は、相も變らぬ陽氣な繁昌振りだ、

その年も暮れて、明れば元祿十七年。

怪盗横行の不安のうちにも正月が來た。屠蘇の酔ひの廻つたらしい廻禮の人々が通る。桃源郷に花かんし、振袖にだらり帯の娘達か、カチン、カチンと追羽根を衝いてゐる。皮羽織を着た鳶の頭が、輪飾りの下を潜つて、手拭ひを配つて步く。獅子舞の太鼓の音、紙鳶の呻り――大江戸も一陽來復の女に包まれてる

料亭　如月の賑はひはまた格別。朝から晩まで、三味や太鼓の亂調子。さながら元祿の粋を此處に集め盡した觀がある。

その如月の玄關へ、今しも一挺の駕籠が着いた。だが、不思議なことは客を送り込んだ氣配もなく、また迎へに來た樣子もない空駕籠。それが、玄關に片寄せられて、昇ぎ入足が一寸四邊の人目を憚るやうに注意しながら、勝手口から窃ッと這入つて行つた。

それが、案内も待たず、一番奥まつた部屋の前まで來て

『親分、開けてもよう御座んすかい?』と、小聲で訊く。

昇ぎ入足は、無論、勘太と小六である。

平病院
平市警察署側(元磐城共濟病院跡)(電六四一番)
院主 院長 醫學博士 鈴木定藏

內科　院長　鈴木定藏
小兒科　部長　佐藤幾要司
內臓外科・一般外科　副院長　高橋俊幸
皮膚泌尿器科　部長 醫學博士　鈴木定藏
レントゲン科・物理的療法科　技師　吉川元雄
藥劑科　藥劑部長　吉本孝平

◎診療時間　每日午前八時ヨリ午後九時迄(夜間診療ニ從事ス)
往診隨時(急患ハ此ノ限リニアラズ)
病室完備……入院隨時[自炊ノ便アリ]
入院料 一日　特等―貳圓　一等―壹圓五拾錢　二等―壹圓參拾錢

晝 夜 診 療
外科一般　內臓外科
レントゲン科　泌尿器科
北川外科
(血液檢査每日)平市新川町(電四六四)
醫學博士　北川芳夫
技師　三浦常保
イツテモ入院デキマス。

レストラン
サロン
食事 喫茶 酒場を兼ねた
平田町　電三五二

大捷の春　獨特の珈琲とWEIN
紳士の喫茶店
サービス一割(外拜辭)
グリル　バツカス
平市銀座通　TIL 702
女店員募集
面白く眞面目に安心して働ける給料制度です
委細本人お出下さい

夜間診療
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
(平市南町電一〇七番)
(見習看護婦募集)

中古各種レール鐵管
礦山用機械器具類
製鐵原料問屋
十二封度レール、トロ車輪付屬附鐵工工具品　新品着荷致しました
二大製鐵會社特約店
海軍工廠御用達
銅鐵 機械
KS 井尻七三郎商店
福島縣平市鍛冶町十一　電話五二二番
荷受場 平市鍛冶町廿三番地
倉庫 平市鍛冶町九番地
御買上品精々御安く納品致します
御拂下品は精々御高値に買受ます

和洋　建具 家具 テーブル 椅子
其他裝飾品一般……
御用命は迅速に御努め致します。
諸官衙 各學校 御用達
製作販賣
(片) 片寄製作店
平市五丁目四　片寄小彌太　電話四八四番
十五、六歳以上の見習徒弟募集
御希望の方は至急申込下さい。

御贈答品には
ニンベン
かつをぶし
イ 宍戸屋商店
平市四丁目
電話(鹽干部)二一五番　(鮮魚部)四〇七番

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山驛より約三十丁　安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生　電話九二五番
入院隨時
院長 醫學士　金森五郎

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
山崎合名會社
福島縣平市　電話(營業部一〇番)(本店二七番)
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

太平火災海上保險株式會社ノ中央代理店
石城中小商工互融會
事務所 福島縣平市搔槌小路一番地　電話五五五番
小名濱方部 小名濱町古湊　湯本方部 湯本町天王崎
菊田方部 植田町愛町　相双支部 原町東一番町

一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、入會相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日積立金ノ獎勵
一、小資本金ノ相互融通

◎互融會事業報告　十二月中
融通口數　二六七四口
融通金額　一五一、九〇九、六七
滿期拂戻口數　一〇六八口
滿期拂戻金額　五、六七〇、〇〇
概况 昭和十二年十月末現在
會員數　八、七五六口
世帶數　五、六八一戸
積立金額　一三六、一七三、〇七
融通金額　一五一、九〇九、六七
融通金回收高　六六、六三五、九〇
滿期拂戻口數　六八四口
滿期拂戻金額　二九、二〇五、〇〇

月曜論壇

戰勝の今紀元節

來る紀元節には我が平市でも例年通り嚴肅な建國祭式と學校生徒及び各種團体の愛國行進とが催される。惟ふに肇國宏遠三千年、未だ曾て一度も外侮を受けた事無き炳乎日星にも儔ふべき世にも光輝ある國史を仰ぐ我々は渾圓球上最も惠まれたる民族として常に誇負措かざる處であるが、而もこの民族的矜持と榮光とは今次事變により東亞永遠の平和確立上世界戰史に不朽の一頁を加へた事によつて一層その深刻なるものあるを痛感せざるを得無い、即ち吾人は八紘に光被する聖天子の稜威を拜し奉ると共に之が爲碧血の大犧牲を拂つて今日あらしめた忠勇なる我が皇軍將兵の勞苦を懷ひ衷心から之の常の年以上重大な意義を有つ佳節を記念せねばならない

精神動員と吾人

十一日の皇威宣揚に引續き、經濟、克己、困苦窮乏節約貯金、勤勞報國、出征家族慰問等前後七日に亘り所謂國民精神總動員强調週間を通じて刻下の非常時意識を端的に深めんとするは上下擧げて愛國心に燃えて居る當今の時節柄一入その効果的なるべき點から寔に機宜を得たるものであり、殊に行事の內容が悉く吾人日常の生活改善上實質的關係を有し、敢て外部の刺戟に俟つ迄もなく自ら進んで躬行を要する事柄が之の機會に於て强調するに過ぎないので、當局の鼓吹宣傳もさる事乍ら所詮は各自の自覺に依る時局心の振起を根幹とせねばならない。即ち從來のありふれた所謂なる週間、かにデー以上眞摯なる關心を拂つて、より趣旨の遂行に努めねばならぬと思ふ。其れには既報のかき敬虔なる態度を以て意義深き紀元節を記念する事により、謙虛なる國民的良心は自づと培はれ、教養ある戰勝國民の特色を發揮する事が出來るものと信じて疑はない

有權者も倍加して興味深まる

所得税調查員選擧　法の改正が齎す影響

個人に對する所得税即ち第三種所得税の增徵はその税率が更に高められた上に從來の免租點千二百圓を千圓に引下げたと云ふ事に於て最も戰時增税の色彩を發揮したものであり、殊に平税務署管內に於ては炭礦及び各種工場所在地丈けに俸給生活者が極めて多く之に伴ふ新納税者も現在の千六百人より或は倍加の激增を來すのでは無いかと豫想さるる旨既報の如くであるが、税法改正の齎す各種の影響中最も興味あるは今秋行はるる所得税調查選擧有權者の增加で從來は右選擧權の條件たる法定期間（三月十五日）內の申告者も前記千六百名に對する何割かの少數であつたのが、今回は新納税者により之亦或は倍加するでは無いかと觀らるる筋が隨つて之迄の如く政黨關係等による委員割當てで協調が果して圓滑に運ぶかどうか、炭礦方面の新有權者を中心としてその動向を觀るは時節柄極めて興味ある事であり、調查會の調查範圍が急に擴大さるる關係から選擧する人物にも何等か趣の異同を招來するものと觀測さる

海軍兵檢查始る

平市から十一名合格

今年の海軍志願兵檢查は昨六日から三日間橫鎭赤坂機關大佐、吉村軍醫大尉、大村縣兵事官により平第三小學校で施行してゐるが受驗者は

（第一日）五五名（二日）七六名（三日）六四名

第一日の昨六日の合格者は二十二名でうち平市からは二十三名受驗しその半數十一名の合格者を出した、近來にない好成績であつた

古殿冶町小谷磐夫、新川町但野富男、磐城跡池田敬、大工町鈴木利通、才槌小路松本幾男、胡摩澤小曾納甲子宮、上平窪薄葉小次郎、同高橋伴夘、稲宜町草野良男、田町新妻一、長橋町矢島三郎

豊間村に忠魂碑建立

學校で資金募集

豊間村では今次事變によつて大峯清太郎氏外二名の戰死者を出したので忠魂碑建立の叫ばれてゐる矢先き同村小學校高等科二年受持訓導大和田一美氏は昨年十二月一日前記大峯氏の戰死以來學校內に竹筒で『忠魂碑建立寄附金箱』を設け生徒として貯蓄を奬勵してゐるこれで貯つた金を近く村當局が忠魂碑建立に乘り出した際寄附しようとするもので村民からこの企てを賞讃されてゐる

平國婦代表

戰傷兵慰問へ

平市國防婦人會代表（支部）山崎キク、藤田ミエ、中村テイ（分會）門傳登美乃、淸野キヨ、酒井トミ、石井フジ外九名の一行は今七日朝自費で若松へ、陸軍病院入院の鄕土出身兵を慰問した

平窪信組役員決る

平市平窪信用組合の第十七回總會を六日午後一時から同村小學校に開き理事、監事を左の如く選任した、組合長（前組合長は專野常彌氏）專務理事は九日頃理事會を開いて互選する

△理事（九名）鈴木忠三郎、薄葉竹松、松本德一、上妻萬治郎、吉野佐平太、木田源三郎、矢吹與助、矢吹初彌、松崎銀之助

△監事（四名）薄葉金重、木田源宗、飂田長一郎、和田淸吾

縣。青。實。地。教。育。訓。練。

縣立青年學校教員養成所では來る十七日から三月九日まで三週間本郡は大浦村委託校を舞台に各環境に應じた實地教育訓練を積むことになつた

小名濱に贋刑事

汗の金七十圓を　純朴な漁夫して遣らる

大漁を祈る舊正月に賑ふ小名濱町に此程贋刑事が現れ純朴な漁夫から汗の七十圓を捲き上げ姿を晦ました話つい兩三日前同町漁夫某方を訪れた刑事と稱する男が去る大晦日に同漁夫が取引先から受取つた金に取調べる筋があると稱し、後刻派出所に出頭する樣にと云ひ殘して現金七十圓を持ち去つたので言葉通り指定の場所へ出頭すると其んな事は一切ないとの事に始めて欺かれた事がわかり地團駄踏んで口惜しがつたが遂に男の姿が發見されず、近所から同情されて居ると

軍人後援會員募集

平方面に於ける軍人後援會會員の募集に關し縣矢部主事が十一日來平、同日午後一時から市會議事堂に役員會を開いて協議

吉田入山所長幾分好轉

熱も下つて食慾出づ

[illegible]て重態を傳へられた吉田入山坑務所長の病氣は過般來一進一退の經過を辿り未だ愁眉を開くの域に達しなかつたが、東北帝大中澤博士の診察により同氏に對しては曾て行はなかつた輸血を試みた結果一昨土曜より昨日曜へかけ漸次容態が好轉して体溫も七度臺に下降し自ら求めて少量の牛乳さへ攝取するに至つたとの事で油斷なき看護を續けてゐる

續々申出る　血液の提供

熱心な回癒祈願

前記輸血に當り附屬病院全員から血液提供の希望申出であり一同を感激せしめたが何れもA型にして所長のO型に合はず結局同型の病院勤務大關君から採血使用したが、自分の血で間に合ふなら―と涙ぐましい迄に張り込んでゐる職員從業員が少くないと

メリヤス組合新設

磐城メリヤス工業組合は此程縣から設立を認可され、組合員十八名で初代理事長には坂本衆次郎氏が就任する

漁船を救ふ（漁夫近く表彰）

豊間村鹽屋町四家光太郎さん外十四名は昨年十一月二十六日茨城縣川尻町金成富次郎氏所有漁船厚生丸が豊間村薄磯海岸で坐礁、救助に向つた磐城丸も遭難せんとするところを寒中素つ裸になつて海中に飛び込み、犧牲的活動によつて兩船を救助したので七日同村駐在巡查より八巻署長に表彰方を上申、同署では實情調査の上縣當局に具申する

短。期。現。役。兵。檢。查。

今年の短期現役徵兵檢查は明八日午前八時半から縣師範學校で行ふ

內。鄕。村。振。興。委。員。會。

八日午前十時から同村役場に開く委員六十二名出席

颯爽！馬上豊かに　二十餘の騎馬行進

來る建國祭の壯觀

戰捷の春とともに結成された石城愛馬鍛練會の平班では來る建國祭の愛國行進に際し班員二十餘名が行進隊の第三班に屬して馬上豊かに颯爽と市內を騎馬行進する

行進を終つた騎馬の一隊は午後から市內八幡小路元磐中グラウンドで勇壯な鍛練會にこの日を記念更に來る二十日頃は郡下の會員全部が前記グラウンドに勢揃ひ、騎兵少佐の輝かしい經歷を持つ沼田內鄕村長の指揮の下に同樣鍛練會を催す筈である

緬。羊。飼。育。實。地。指。導。

縣農[illegible]課常業技手は左の日割で郡下緬羊飼育實地指導を行ふ

九日午後一時飯野村、十一日午前九時玉川村、同午後一時泉村

陣中を聽く　(82)

下手乍らも劍道五段　終始奮戰今日に至る

市內揺槌小路出身　三浦常雄君（通信）一

―戰地に於きましては數多の慰問袋並に慰問文中に現はれる御熱誠籠れる銃後の御後援に對しまして滿腔の感謝を表して居ります此等の尊き御心盡しが如何に明日の戰鬪に闘如としては皇軍の士氣を振起させるかわかりません、銃後の皆々樣に厚く御禮を申上げます

北支は今深き眠りに落ち自然は微動だも致しません日夜動き絶へざるもの其々は暴支膺懲の聖力であります。皇軍の神速激甚なる行動は連戰連勝半歲を出でずして此處黃河畔に鋭鋒を擬し（略）此間小生部隊長護衞として中學時代、大學時代に修業せし劍道五段の拙腕に大命を帶びて幾戰鬪に參加し　或時は最早之迄と銃火の下に觀念せし事幾度彈雨は身を掠めて行くそのヒユー／＼と鳴る敵彈は冷き一個の生命の感あります。實際近代科學戰のそれも合戰の威力は無限の曠野も耕地も軍馬車輛の赴く所日々立派な一大道路と化しの活動を活潑ならしめます、今日の文化は明日の灰燼の地と化す、泥濘車軸を沒し暴雨下に一時の假睡をとるに皇軍は荒野に晒され一枚の合羽にうづくまる、手を嚙つて腹を充たし丈餘の壍壕を飛び越へて肉彈的鬪爭は映畫や新聞如きの實際の體驗ならでは到底想像すら許されません。また其を敍述するに言葉無きを悲しむ次第であります。硝煙絶えたる所支那民屋內のまどろみ、路營の焚き火の瞑想、高梁塚陰の憩ひに、想ひは故鄕の杜や山と河懷しの父母弟妹に馳せ連想は雲時盡きんとはせず。

小生十一月大名縣の戰鬪の歸途ものせる駄歌です御笑讀下さい

高梁の秋のぬくみにうゝ／＼を吾が夢のせて母が邊に行く

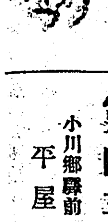
（註、筆者は磐中卒業、國大出の少壯劍客である）

油斷ならぬ

平青年學校教諭　大越久五郎君

―お蔭樣にて元氣旺盛目下全椒の警備に當つて居ります。人口約三萬ばかり全椒縣廳の所在地です、附近には未だ敗殘兵が相當集結して居りますが戰意を失つてる樣ですが小部隊と見ると抵抗するので油斷はなりません（後略）

一月二十四日



豊漁に輝く優勝旗

今年も淸勝、共德丸か　縣當局の調査すゝむ

縣水產會が斯業奬勵上優勝旗を授與すべき十三年中の最高遠洋、沿岸兩漁業中の最高漁獲者は縣において各漁業組合に照會調查中であるが大体遠洋漁業は江名濱淸勝丸（船主佐藤助五郎氏船長吉田留吉氏）の三萬五千五百十圓十錢と沿岸漁業では小名濱共德丸（船主柳內房吉氏船長伊藤房義氏）の十七萬一千五百四十一圓三十四錢とが各第一位を占め兩船とも榮ある優勝旗を獲ることになるだらう、前者は鰹及び秋刀魚であり後者は鰮撈網で遂に鰹秋刀魚を凌いでをり共德丸は四ケ年連勝、淸勝丸も三ケ年連勝以て永久授與される優勝正旗を一年優勝の副旗と共に同船が獲得する譯である尚共德丸は前年この優勝正旗を三年連勝の時授與されてゐる

代理店　魁文堂
雲州神國印ソロバン
優勝印高級ソロバン
ニコ／＼印高級ソロバン
ドンコ帳簿・ライカ帳簿
ウエル萬年筆
ライトインキ
ムツソリオニペン
ゼネラル、カーボン紙

劍道階級試驗

兩分會終る

武德會平分會の劍道階級試驗は一昨日午後一時から小川文章氏によつて平署演武場で行つたが參加約七十名植田分會では六十名に對する講習が終つて四日同氏により階級試驗を行つたが受驗者三十名、三段二名、二段五名あつた

新二月八日　火曜
舊正月九日
先負　先勝　執　尾宿

易斷判定鑑　東京市本鄕區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　見込みたる事も中途にして行ちがひを生じ易し▲二黑　表面の喜氣に驅らるゝ時はぬか喜びに終る日▲三碧　心平靜なる時は運氣刻々と吉に向ひ進む日▲四綠　努力は萬福のもとひ辛抱强き者は勝をなす日▲五黃　自個心をおさへ大小となく目上に從ふて吉し▲六白　引込み思案を起さず氣を勵まし進みて吉し▲七赤　吉日なれども油斷すれば秋じよ次第にみだれん▲八白　內輪より事の破れを生ずることある日注意▲九紫　物にうまざる時は大吉の日となる　但旅行凶

八日（小名濱測候所發表）
滿潮　前八、五五　後―
干潮　前二、四〇　後四、三五

廣告

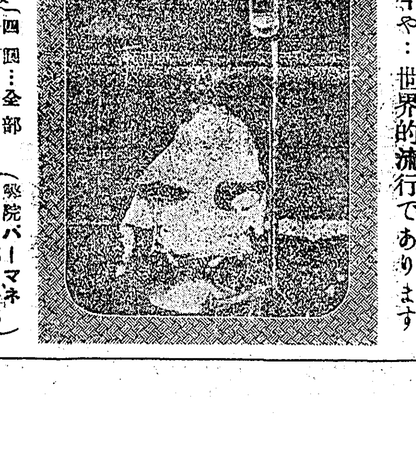
おでん　一平（イッパイ）　電話二六三番

磐城名物　靈峰羊羹　小川鄕驛前　平屋賣店

平みやげ米やの最中
尚一層風味と品價を吟味致しまして御客樣を御待ち致して居ります。
平市五丁目　米屋最中專門店　電話（呼）二九〇番
ソセイナンヨー散　南洋蘇製社平代理店

旅館　大幸館
東京下谷郵便局橫通角　上野驛前
電話下谷園六七七番
私は平市出身ですから特に鄕里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人　比佐棟雄

御得意樣への御禮に！
パーマネントウエーブは今や：世界的流行であります



水野化粧院
お値段　四圓…全部　三圓…普通（美院パーマネント部一部）
水野冬子
自宅　平市[illegible]　電話六七八番　電話五二五番

日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社平油特約店
福島縣平市支店一丁目（電話六十一番）
關彰商店平支店
本店　茨城縣下館町　電話五五・三三九番
支店　茨城縣土浦町田宿　電話六五三番
茨城縣久慈町　電話一三七番
茨城縣多賀郡大津　電一四七番
福島縣本縣平潟　電五四番
福島縣四倉驛前　電話四八番
油槽所　常磐線泉驛前　福島縣小名濱町
海岸給油所　大津港、平潟港、江名濱
ガソリン給油所　土浦町新國道日本石油給油所　電話八二四番

醫學士　吉田久雄
吉田眼科醫院
平市紺屋町　電話六八番